第９講　江戸時代の文化③

1　化政文化（宝暦・天明期の文化を含む）

①化政文化の特色

A　当時の世相を反映した，**享楽的・退廃的な傾向が強い**文化。

☆風刺や皮肉で現実の憂さを発散。

B　幕藩体制の動揺を目の当たりにし，**批判的精神**に満ちる。

C　上方と並ぶ経済の中心地に成長した**江戸**の，幅広い階層の都市民が担う文化。

☆文化の多様化

☆美意識としての「粋」と，行動原理としての「通」が重視される。

D　都市と農村，三都と地方の文化的交流は盛んで，全国各地の豪商・豪農を中心とした**文化の地方普及**が著しい。

〈 ***Note*** 〉

②化政文学

元禄文学に比べ，より通俗的で，政治・社会に題材をとる傾向があり，人間性は深く掘り下げない（＝**戯作**）。三都の本屋の旺盛な出版活動と**貸本屋**の増加により，庶民にも読書の習慣が広まった。

A　**小説**

あ　**草双紙**〔子供向けの赤本⇒大人向けの黒本・青本〕（挿絵で読者を引きつける）

い　**黄表紙**（風刺・滑稽を基調とする通俗的絵入り小説）
『鸚鵡返文武二道』『金々先生栄花夢』（恋川春町）⇒寛政の改革で弾圧
『江戸生艶気樺焼』（山東京伝）

う　**洒落本**（遊里を題材とする絵入り短編小説）
『仕懸文庫』『通言総籬』（山東京伝）　⇒寛政の改革で弾圧
☆版元の**耕書堂**経営者**蔦屋重三郎**も，財産の半分を没収される。

え　**読本**（歴史・伝説等を題材とした文章主体の絵入り小説）
『雨月物語』（上田秋成）　⇒大坂，前期読本
☆古典を題材とした短編怪異小説集。
『椿説弓張月』『南総里見八犬伝』（曲亭〔滝沢〕馬琴）⇒江戸，後期読本
☆“勧善懲悪”“因果応報”を主題とする長編小説。

お　**滑稽本**（笑い・滑稽を基調とする絵入り小説）
『東海道中膝栗毛』（十返舎一九）
『浮世風呂』『浮世床』（式亭三馬）

か　**合巻**　（数冊の黄表紙を綴じ合わせたもの）
『偐紫田舎源氏』（柳亭種彦）　⇒天保の改革で弾圧

き　**人情本**（恋愛を主題とした女性向けの絵入り小説）
『春色梅児誉美』（為永春水）　⇒天保の改革で弾圧

B　**随筆**

『北越雪譜』（鈴木牧之）
☆越後国の農村で，雪国の自然や暮らしを描写。

〈 ***Note*** 〉

C　脚本

あ　人形浄瑠璃

歌舞伎に圧倒され低調化，常磐津節・新内節・清元節・一中節などの唄浄瑠璃〔座敷浄瑠璃〕へと転化していく。

『仮名手本忠臣蔵』『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』（二世竹田出雲）

『本朝廿四孝』（近松半二ら）

い　歌舞伎

庶民生活を扱う生世話物が流行。並木正三が人形浄瑠璃の技法を取り入れ，花道・せり出し・廻り舞台などを考案，大人気となる。

『東海道四谷怪談』（四世鶴屋南北）

『三人吉三廓初買』（河竹黙阿弥）⇒幕末期にかけて白浪物の名手

D　詩歌

あ　俳諧

『蕪村七部集』（蕪村〔与謝蕪村〕）⇒上方

『おらが春』　（一茶〔小林一茶〕）⇒信濃国

い　川柳

機知に富んだ表現で人情・世相・風俗を詠む，滑稽・風刺を基調とした俳諧。

☆『誹風柳多留』（柄井川柳ら）

う　和歌

万葉調　賀茂真淵，田安宗武，加藤千蔭ら

☆良寛⇒越後国の僧

古今調　香川景樹⇒桂園派

新古今調　村田春海

え　狂歌

機知に富んだ表現で人情・世相・風俗を詠む，滑稽・風刺を基調とした和歌。

☆大田南畝〔蜀山人・四方赤良〕，石川雅望〔宿屋飯盛〕，朱楽菅江ら

〈***Note***〉

③国学の発達

古学派の研究法や歌学の刷新運動，**神道思想**などが源流となり発達。各地の神官・豪農・豪商に広まった。儒教・仏教などの外来思想を批判，古代人の生活・思想である**古道**を理想化した（＝復古主義）。

A　**荷田春満**（享保期）

京都から江戸に下り『**創学校啓**』を著し，８代吉宗に提出。

B　**賀茂真淵**（宝暦期）

荷田春満に師事。『**国意考**』『**万葉考**』『歌意考』を著し，万葉集に“高く直き心”を見出した。私塾「県居」を設立。

C　**本居宣長**（天明・寛政期）

伊勢国松坂出身，賀茂真淵に師事。“漢心”を捨て“真心”に生きることを重視し，“惟神の道”を説いた。

☆『**古事記伝**』（神道書『直毘霊』含む）『**（源氏物語）玉小櫛**』『玉くしげ』『**秘本玉くしげ**』『**玉勝間**』『うひ山ぶみ』を著し，私塾鈴屋を設立。

D　**塙保己一**（寛政期）

賀茂真淵に師事。江戸の**和学講談所**で『**群書類従**』を編纂した，盲目の国学者。

E　**平田篤胤**（天保期）

本居宣長の没後門人を自称。神道と国学を融合し**復古神道**を唱え，民族主義・国粋主義的傾向を強めた。

☆『古史徴』『古史伝』『古道大意』を著し，私塾気吹屋を設立。幕末の尊王攘夷運動に絶大な影響を与える。

F　その他

荷田春満の養子荷田在満，本居宣長の没後門人で随筆『比古婆衣』を著した伴信友など。

〈***Note***〉

④洋学〔蛮学⇒蘭学⇒洋学〕の発達

享保の改革で実学奨励策をとる８代将軍吉宗が，漢訳洋書輸入の禁を緩和（1720年）。さらに青木昆陽・野呂元丈にオランダ語を習得させる。

A　洋学の発達

あ　『解体新書』（杉田玄白〔若狭国小浜藩医〕・前野良沢〔豊前国中津藩医〕・中川淳庵・桂川甫周）

☆ドイツ人クルムスの著した『解剖図譜』の蘭訳本『ターヘル＝アナトミア』を翻訳（挿絵は小田野直武），1774年に刊行。

い　『蘭学事始』　（杉田玄白）　⇒『解体新書』訳述の回想録。

う　『蘭学階梯』　（大槻玄沢）　⇒蘭学入門書

え　『西説内科撰要』　（宇田川玄随）　⇒オランダ内科書の翻訳

お　『ハルマ〔波留麻〕和解』（稲村三伯）　⇒初の蘭日辞書“江戸ハルマ”

か　平賀源内の研究

エレキテル（摩擦起電器），寒暖計，火浣布などを発明

B　洋学の展開

あ『寛政暦』　（天文方の高橋至時が作成）

い『暦象新書』　（志筑忠雄，1802年）⇒地動説や万有引力説を紹介

う『大日本沿海輿地全図』（伊能忠敬，1821年完成）⇒別名“伊能図”

え『気海観瀾』　（青地林宗）　⇒初の物理学書

お『窮理通』　（帆足万里）　⇒物理学書

か『舎密開宗』　（宇田川榕庵）　⇒イギリスの化学書を翻訳

き『菩多尼訶経』　（宇田川榕庵）　⇒西洋植物学を紹介

く『日本植物誌』　（ツンベルグ）　⇒オランダ商館のスウェーデン人医師

C　幕府の洋学研究機関⇒17世紀後半，天文台を設置

1811年，天文方高橋景保の建議で蛮書和解御用を設置。フランス人ショーメルの百科全書『厚生新編』などを翻訳。

☆のち洋学所（1855年）⇒蕃書調所（1856年）⇒洋書調所（1862年）⇒開成所（1863年）へと改編。

〈 ***Note*** 〉

D　幕府の洋学統制

あ　**シーボルト事件（1828年）**

国禁（こっきん）であった日本地図の持ち出し未遂（みすい）。オランダ商館の**ドイツ人医師シーボルト**は国外追放，天文方の**高橋景保**は獄死。

☆シーボルトは『**日本**』『日本動物誌』などの著書がある。

い　**蛮社（ばんしゃ）の獄（ごく）　　　（1839年）**

モリソン号事件（1837年）を契機とする幕政批判などを理由に，**尚歯会**（しょうしかい）〔**蛮学社中**（ばんがくしゃちゅう）〕の蘭学者に弾圧を加える。『**慎機論**（しんきろん）』を著した**渡辺崋山**（わたなべかざん），『**戊戌夢物語**（ぼじゅつ）』を著した**高野長英**（たかのちょうえい）らを処罰。小関三英（こせきさんえい）は自害した。

〈 ***Note*** 〉

⑤儒学と教育

A　幕府の教育機関

1790年　**寛政異学の禁**で朱子学を正学（せいがく）とする。

1797年　聖堂学問所を官立化し，**昌平坂学問所（しょうへいざかがくもんじょ）〔昌平黌（こう）〕**とする。

B　**藩学〔藩校〕**⇒全国に約250校

あ　**明倫館（めいりんかん）　（長州藩，毛利吉元（よしもと））**

い　養賢堂（ようけんどう）　（仙台藩）

う　明倫堂　（尾張藩）

え　**時習館（じしゅうかん）　（熊本藩・細川重賢（しげかた））**

お　**造士館（ぞうしかん）　（薩摩藩・島津重豪（しげひで））**

か　**興譲館（こうじょうかん）　（米沢藩・上杉治憲（はるのり）〔鷹山（ようざん）〕が再興（さいこう））**

き　修猷館（しゅうゆうかん）　（福岡藩）

く　**明徳館（めいとくかん）　（秋田藩・佐竹義和（よしまさ））**

け　明倫堂　（加賀藩）

こ　**日新館　（会津藩）**⇒はじめ稽古（けいこ）堂

さ　致道館（ちどうかん）　（庄内藩）

し　**弘道館（こうどうかん）　（水戸藩・徳川斉昭（なりあき））**

C　**郷学〔郷校〕**

あ　**閑谷（しずたに）学校（岡山藩・池田光政）**

い　含翠堂（がんすいどう）　（摂津国平野）

う　有備館（ゆうびかん）　（仙台藩）

え　廉塾（れんじゅく）　（福山藩）⇒菅茶山（かんちゃざん）の私塾を改称

〈***Note***〉

D　私塾

あ　**弘文館（林羅山〔道春〕）**　⇒上野忍ヶ岡に設立された**朱子学塾**
☆のち湯島に移転，聖堂学問所となる。

い　講習堂　（松永尺五）　⇒京都二条に設立された朱子学塾

う　藤樹書院（中江藤樹）　⇒近江国小川村に設立された陽明学塾

え　**古義堂　（伊藤仁斎）**　⇒**京都堀川**に設立された**古学塾**

お　**蘐園塾　（荻生徂徠）**　⇒**江戸**に設立された**古学塾**

か　**懐徳堂　（中井甃庵ら）**　⇒**大坂**に設立された**町人塾**（のち準官学）
☆初代学主は三宅石庵，のち中井甃庵やその子**中井竹山**・**履軒**らが学主となり，『**出定後語**』の**富永仲基**や『**夢の代**』の**山片蟠桃**などを輩出。

き　**芝蘭堂　（大槻玄沢）**　⇒**江戸**に設立された**蘭学塾**
☆**新元会〔おらんだ正月〕**を開催

く　**咸宜園　（広瀬淡窓）**　⇒**豊後国日田**に設立された**全国最大規模の私塾**

け　洗心洞　（大塩平八郎）　⇒大坂に設立された陽明学塾

こ　**適塾〔適々斎塾〕（緒方洪庵）**　⇒**大坂**に設立された**蘭学塾**
☆**福沢諭吉**・**橋本左内**・大村益次郎・佐野常民らが学ぶ。

さ　**鳴滝塾　（シーボルト）**　⇒**長崎**に設立された診療所**兼医学・洋学塾**
☆**高野長英**・小関三英・**伊東玄朴**らが学ぶ。

し　**松下村塾**（吉田松陰の叔父）⇒**長門国萩**に設立，**吉田松陰**が兵学・儒学等を教授。
☆**高杉晋作**・**久坂玄瑞**・**伊藤博文**・**山県有朋**・品川弥二郎・前原一誠らが学ぶ。

E　庶民教育

あ　**寺子屋**〔手習所〕

生産活動の向上と商業の発達を背景に，男女共に**読み・書き・算盤**を教える。

☆『庭訓往来』『六諭衍義大意』『女大学』などを教科書として使用。

☆幕府の文書支配主義の影響もあり，**当時の日本の初等教育は世界屈指の水準を誇った**。

〈 ***Note*** 〉

い　**心学舎**

享保期，**京都**の**石田梅岩**が町人道徳として**心学**〔**石門心学**〕を唱え『**都鄙問答**』を著す。

☆弟子の**手島堵庵**（**京都**）やその弟子**中沢道二**（**江戸**）が広める。

---

⑥思想の発達

A　政治・社会思想の発達

あ　17世紀後半～18世紀初め，儒学者による幕藩体制維持の方法論〔政治経済論＝**経世論**〕の展開

熊沢蕃山〔了介〕（**陽明学**），**荻生徂徠**（**古学**）⇒武士帰農論

太宰春台（**古学**）⇒商業藩営論

い　18世紀半ば～，幕藩体制批判思想の出現

『**自然真営道**』『統道真伝』（**安藤昌益**⇒陸奥国八戸の医師）

☆“万人直耕の自然世”を理想とする。

う　19世紀～，経世論の発達

『**稽古談**』『経済談』　（**海保青陵**）　⇒藩重商主義

『**西域物語**』『**経世秘策**』　（**本多利明**）　⇒開国貿易論・属島開発論

『**経済要録**』『**農政本論**』『**宇内混同秘策**』（**佐藤信淵**）⇒海外経略論・産業国営化

B　**尊王思想**の発達

当時の尊王思想は一般に幕府を否定するものではなく，朝廷を尊ぶことにより幕府の権威を護ろうとするものが多かった。

あ　尊王思想の発生

水戸藩の前期水戸学，山崎闇斎（朱子学者〔南学〕）の垂加神道

い　**尊王事件**の発生

宝暦事件（**1758年**，**竹内式部**）⇒**京都**

明和事件（**1767年**，**山県大弐**）⇒**江戸**☆山県大弐は『**柳子新論**』の著者

う　尊王論の普及⇒尊王思想家の登場

高山彦九郎，蒲生君平（『山陵志』の著者），**頼山陽**（『**日本外史**』の著者）など

〈 ***Note*** 〉

え　尊王攘夷運動（幕末）への影響

平田篤胤の復古神道

水戸藩主徳川斉昭のもとでの後期水戸学

☆藤田幽谷，藤田東湖（『弘道館記述義』の著者），会沢正志斎〔安〕（『新論』の著者）

吉田松陰の松下村塾

C　哲学的思想の登場

三浦梅園が『玄語』で宇宙論・自然哲学を説き，“条理学”を唱える。

---

⑦化政美術

A　浮世絵⇒江戸中心

あ『弾琴美人』『ささやき』　（鈴木春信）⇒1765年，多色刷の錦絵を創始

い『婦女人相十品』『高名三美人』　（喜多川歌麿）⇒美人絵の名手

う『市川鰕蔵』『大谷鬼次』　（東洲斎写楽）⇒役者絵･相撲絵の名手

え『富嶽三十六景』　（葛飾北斎）

お『東海道五十三次』『名所江戸百景』（歌川〔安藤〕広重）

☆開国後，北斎・広重らはマネ・ゴッホなどフランス印象派のジャポニズム〔日本趣味〕に多大な影響を与えた。

B　写生画⇒京都中心

あ『群鶏図襖』　（伊藤若冲）

い『雪松図屏風』『保津川図屏風』（円山応挙）　⇒円山派の祖，遠近法を採用

う『柳鷺群禽図屏風』　（呉春〔松村月溪〕⇒円山派から独立した，四条派の祖。

C　文人画⇒中国の南画の影響を受けた，文人・学者などが余技として描いたもの。『十便十宜図』（池大雅・蕪村ら）

☆各地を遊歴した浦上玉堂，江戸の谷文晁とその弟子渡辺崋山（『鷹見泉石像』『一掃百態』），豊後国の田能村竹田も著名な文人画家。

D　西洋画

あ『西洋婦人図』　（平賀源内）

い『不忍池図』『三囲景図』（司馬江漢）⇒腐食銅版画〔エッチング〕を再興

う『浅間山図屏風』　（亜欧堂田善）

〈 ***Note*** 〉

⑧生活と信仰

A　三都・城下町の娯楽

芝居(しばい)小屋，勧進(かんじん)相撲，見世物(みせもの)小屋，寄席(よせ)，銭湯(せんとう)〔湯屋(ゆや)〕，髪結床(かみゆいどこ)，遊郭(ゆうかく)，岡場所(おかばしょ)，瓦版(かわらばん)〔よみうり〕など。

B　農村・在郷町の娯楽

村芝居〔地芝居〕，猿廻し，獅子舞，万歳(まんざい)，瞽女(ごぜ)や座頭(ざとう)の歌など。

C　寺社参詣(さんけい)の流行

あ　寺社の世俗化

縁日(えんにち)，開帳(かいちょう)・出開帳(でがいちょう)，富突(とみつき)〔富くじ〕など。

い　旅の流行

湯治(とうじ)・物見遊山(ものみゆさん)・寺社参詣など。

☆『菅江真澄遊覧記(すがえますみゆうらんき)』（菅江真澄）

う　寺社参詣

伊勢神宮（伊勢国，内宮(ないくう)・外宮(げくう)への御蔭参り(おかげまいり)），善光寺（信濃国），金比羅宮(こんぴらぐう)〔金刀比羅宮(ことひらぐう)〕（讃岐国），成田不動（下総国）など。

え　巡礼(じゅんれい)

四国八十八カ所（弘法大師信仰），西国(さいごく)三十三カ所・坂東(ばんどう)三十三ヵ所・秩父(ちちぶ)三十四ヵ所（観音(かんのん)信仰）など。

D　民衆宗教の発生

あ　黒住教(くろずみきょう)（文化期，黒住宗忠(くろずみむねただ)　〔備前国〕）

い　天理教(てんりきょう)（天保期，中山みき　〔大和国〕）

う　金光教(こんこうきょう)（安政期，川手文治郎(かわでぶんじろう)〔備中国〕）

E　民間行事

あ　五節句(ごせっく)（人日(じんじつ)・上巳(じょうし)・端午(たんご)・七夕(たなばた)・重陽(ちょうよう)），彼岸会(ひがんえ)，盂蘭盆会(うらぼんえ)など。

い　日待(ひまち)・月待(つきまち)・庚申講(こうしんこう)・富士講など。

〈 ***Note*** 〉

第９講　文化史確認テスト

1　黄表紙の恋川春町と洒落本の山東京伝を弾圧した改革とは？

①正徳の治　②享保の改革　③寛政の改革　④天保の改革

2　天保の改革で弾圧された，為永春水の人情本の代表作とは？

①江戸生艶気樺焼　②金々先生栄花夢
③偐紫田舎源氏　④春色梅児誉美

3　随筆『北越雪譜』を著した，越後国塩沢の豪農とは？

①上田秋成　②鈴木牧之　③佐藤信淵　④菅江真澄

4　（二世）竹田出雲の書いた脚本ではないものを一つ選べ。

①仮名手本忠臣蔵　②菅原伝授手習鑑　③義経千本桜　④本朝廿四孝

5　古今調の桂園派の祖とされる歌人とは？

①賀茂真淵　②田安宗武　③良寛　④香川景樹

6　国学者本居宣長の著作ではないものを一つ選べ。

①万葉考　②古事記伝　③秘本玉くしげ　④玉勝間

7　国学者平田篤胤が唱えた神道とは？

①伊勢神道　②唯一神道〔吉田神道〕　③垂加神道　④復古神道

8　大槻玄沢が著した蘭学の入門書とは？

①蘭学事始　②蘭学階梯　③西説内科撰要　④ハルマ和解

9　島津重豪が設立した，薩摩藩の藩校〔藩学〕とは？

①明倫館　②造士館　③日新館　④弘道館

10　大阪の懐徳堂で学び，無神論・無鬼論で有名な『夢の代』を著した町人学者とは？

①三宅石庵　②中井甃庵　③富永仲基　④山片蟠桃

11　折衷学者広瀬淡窓が豊後国日田に設立した，全国最大規模の私塾とは？

①古義堂　②芝蘭堂　③咸宜園　④適塾〔適々斎塾〕

12　シーボルトの鳴滝塾で高野長英や小関三英とともに学んだ，江戸に種痘館（のち種痘所）を設立する人物とは？

①中井竹山　②橋本左内　③伊東玄朴　④中沢道二

13　心学〔石門心学〕を唱えた京都の石田梅岩の著書とは？

①出定後語　②都鄙問答　③自然真営道　④稽古談

14　『富嶽三十六景』を描いた浮世絵師とは？

①鈴木春信　②喜多川歌麿　③葛飾北斎　④歌川広重

15　松平定信に仕えた絵師である亜欧堂田善の作品を一つ選べ。

①雪松図屏風　②鷹見泉石像　③西洋婦人図　④浅間山図屏風

解答

1　③	2　④	3　②	4　④	5　④
6　①	7　④	8　②	9　②	10　④
11　③	12　③	13　②	14　③	15　④